

**麻しん(はしか)・風しんの  
予防接種を受けましょう!**

《最近の麻しん(はしか)の流行について》

平成19年に、10代および20代の年齢を中心に、麻しんが流行しました。主な原因は、その年齢層の方が麻しんの予防接種を1度も受けていなかった、あるいは1回は受けたが免疫が獲得できていなかったと考えられています。

そのため、平成20年度より5年間、従来の定期予防接種の対象者に加えて、中学1年生と高校3年生に相当する年齢の方に麻しん・風しんの混合ワクチンを補足的に接種することになりました。

《麻しん(はしか)とはどんな病気ですか?》

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる一般に小児期に多い急性の感染症として知られています。

症状は高熱と発しんを伴う重い感染症で、特効薬がないため、気管支炎、肺炎、脳炎などの重い合併症が発生したり、死亡することもあります。

また、とても感染力が強いため、免疫のない人が麻しんウイルスに接すると、ほとんどの人が感染して発病します。

麻しんにかからないためには、予防接種を受けることが唯一の方法で、接種した人のうち95%以上が免疫を獲得できると言われています。

小さいお子さんほど重症化しやすいので、1歳になられたらなるべく早く予防接種をうけることをお勧めします。

《風しんとはどんな病気ですか?》

風しんは「三日はしか」とも呼ばれ感染しても軽いと思われています。しかし、幼児期に感染すれば、軽いことが多いのですが、小学校高学年以上の人が感染すると、症状がかなり重くなる場合があります。

風しんにかからないためには、

麻しんと同じく、予防接種を受けることが有効です。

《風しん予防接種の大切な役割》

風しんの予防接種は、免疫の無い女性が妊娠初期に風しんに感染すると、風しんウイルスが胎児に感染して、目や耳、心臓などに障がいのある子どもが生まれてくる先天性風しん症候群の予防という大切な役割があります。

《接種方法》

予防接種委託医療機関に予約をしてください。

《必要なもの》

予防票、母子健康手帳

《接種料金》

無料(公費負担)

《接種時期》

麻しんは毎年春から初夏にかけて流行が見られますので、7月までの接種をお勧めします。



平成21年度の麻しん・風しんワクチン定期予防接種対象者

第1期	生後12ヶ月以上24ヶ月未満の方(1歳児)
第2期	5歳以上7歳未満の方で、小学校入学までの1年間(年長児) 平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ
第3期	中学1年生に相当する年齢の方(年度内に13歳になる方) 平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれ
第4期	高校3年生に相当する年齢の方(年度内に18歳になる方) 平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれ

《麻しん・風しんの混合ワクチンです》  
※どちらにかかったことがある方は、かかってないほうのワクチンのみの接種ができます。かかりつけ医と相談して下さい。  
※定期予防接種対象外の方は、接種料金が自己負担となりますので、かかりつけ医と相談の上、接種して下さい